

福岡よか未来プロジェクト 令和6年度採択



福岡未来創造 プラットフォーム

福岡からみる日本とカリブ プロジェクト活動報告

【本プロジェクトの目的】

- カリブ地域への理解促進
- 国際都市福岡の将来を見据えた若者育成
- 大学・地域間の連携強化

- 2024年は、日本とカリブ共同体（カリコム：CARICOM、下記注参照）事務レベル協議開始後30年が経過した年、日本とジャマイカ及びトリニダード・トバゴとの国交樹立60周年を記念して「日・カリブ交流年2024」に指定されている。**本プロジェクトは外務省「日・カリブ交流年2024」の認定事業**
- また、福岡市や福岡女子大学、福岡大学および久留米大学の協力も取り付け

注）カリブ共同体（カリコム：CARICOM）

アンティグア・バーブーダ、バハマ、バルバドス、ベリーズ、ドミニカ国、グレナダ、ガイアナ、ハイチ、ジャマイカ、セントクリストファー・ネービス、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島、スリナム、トリニダード・トバゴ、モンセラット（英領）で結成されたカリブ海地域の経済統合や外交政策の調整等を目的とする機関



プロジェクト名：福岡からみる日本とカリブ

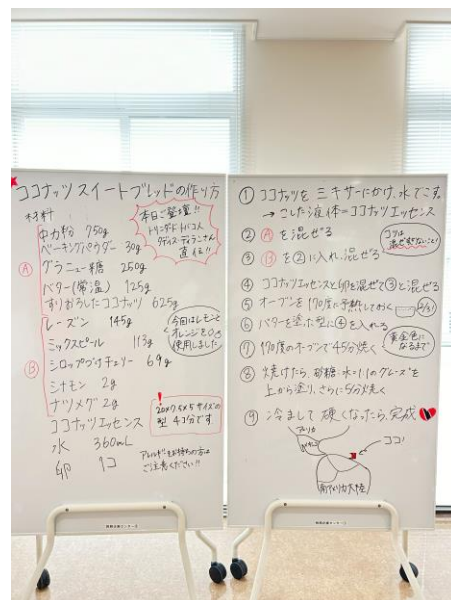


イベント名	福岡からみる日本とカリブ ～福岡でカリブを知る、日本を知りなおす「じぶん」を生きる4名のトーク～
開催日程	10月5日（土）14:00～15:00
会場	福岡女子大学講義棟2階C201中ホール
プログラム	①カリブと私のキャリア、アイデンティティ／鈴木美香（福岡大学人文学部講師） ②トリニダード・トバゴ、そして廃棄物処理を学んだ福岡・日本について ／タディス・ディロン（九州大学大学院工学府土木工学専攻博士課程卒） ③アイリー・レゲエ講座 ／神本秀爾（久留米大学文学部教授）・KC（レゲエDJ）
参加費	無料
定員	100名

【当日の様子①】

福岡女子大学生が中心となり福岡大学・久留米大学の学生と共に会場装飾や当日運営についての準備を実施

- ・会場装飾としてカリブ 14 か国の国旗や各国にちなんだ画像やイベントのチラシ・ポスターを掲示
- ・来場者に手製のココナッツ・スイートブレッド（トリニダード・トバゴの焼き菓子）を配布。受付でレシピを紹介
- ・来場者に手製の旗（トリニダード・トバゴおよびジャマイカの国旗の色）を配布
- ・登壇者の著書の紹介コーナーの設置



【当日の様子②】



プロジェクト構成員兼司会進行役の和栗百恵（福岡女子大准教授）よりイベントの趣旨を説明



プロジェクト代表者の鈴木美香（福岡大講師）より自身のキャリア、アイデンティティおよびカリブでの勤務・生活体験を説明



九州大博士課程を卒業したトリニダード・トバゴ人のタディス・ディロン氏よりトリニダード・トバゴ、日本での生活体験、自身の専門の廃棄物処理について説明



プロジェクト構成員の神本秀爾（久留米大教授）よりジャマイカの音楽レゲエについて説明



神本とレゲエDJのKC氏の対談



KC氏によるレゲエとソカ（トリニダード・トバゴの音楽）の実演で盛り上がる会場

【成果】

①**参加者数**：100名（プロジェクト構成員10名およびゲストスピーカー2名含む）

②**成果**

- カリブ地域への理解促進に貢献
- ボランティア・スタッフとして関わった3大学の学生および来場者として来た大学生に対し自分とは異なるバックグラウンドおよび多様なキャリアパスに触れる機会を提供したことで、異文化理解促進のみならずキャリア意識醸成にも貢献
- 3大学の教員・学生が協働して準備を進めたほか、自治体や地元の団体・企業にも宣伝活動に協力を呼び掛けたことで、大学間、大学・地域間の連携・交流促進にも貢献

③**来場者からのコメント**

アンケートでは、「カリブの国々について知ることができた」「海外への関心が高まった」「自分と異なるバックグラウンド・所属先の人々に出会えた」といったコメントが目立った

